

# 手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉  
 発行2019年9月1日 〈毎月1日発行〉  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 eメール shiga.minken@gmail.com  
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

## 「教育のつどい」教育研究全国集会 in 滋賀」 に参加して

茶谷淑子 滋賀民研

八月十六日〜十八日、栗東芸術文化会館さきらと立命館大学をメイン会場に教育研究全国集会が行われ、滋賀民研も現地実行委員会の一員として参加しました。台風の影響で全国から参加される方々の交通が心配されましたが、全体会には1,200名、集会全体ではのべ約5,000名の参加を得て、成功裡に終わりました。全滋賀教組本部および、全教本部の皆様をはじめ、関わってくださった方々のご努力により「お疲れ様」と申し上げます。

今回、特徴的だったのは、現地企画の開催行事をすべて高校生が行ったことです。伊吹高校の書道部による書道パフォーマンスと近江兄弟社の演劇部の劇です。「私にもできることはある」と訴える障害を持つ演劇部員とコンクールで賞を取ることにこだわる部員のやりとりは、現在の学校の象徴ではないでしょうか。

また、分科会に「日本語指導が必要な児童・生徒と学校教育」と、「子育てと教育」cafeの二つが現地企画として設定されたことも今回の特徴です(例年は一つ)。

私は「教育条件確立の運動」という分科会に初めて参加し、『子どもの声、大人の声からみえるもの』滋賀の教育と子ども白書』の取り組みから見えるものを少々報告しました。『白書』は作ったけれどまだ議論ができていないので、何が見えるのかが見えていません。また、私たちが何をしなければならぬのかも議論されていません。そこで、滋賀民研としては、オータムセミナーで議論しようということになりました。テーマは「働き方改革」時代の教師の多忙化について考える」です。多くの方の参加を呼びかけます。教師の仕事は、学校にいる時間が少なくなれば改革されたというふうなもの

### 《 今月の紙面 》

- ・【巻頭言】教育のつどいに参加して/茶谷淑子……………P1
- ・『琵琶湖の水際』奮闘記/角田純一郎……………P2.3
- ・沖縄修学旅行に取り組んで/今宿博樹……………P4.5
- ・担任としてのあり方の原点〜ハンドボールチーム結成の経験を教育に~/門坂涼……………P6.7
- ・六五歳、「老人会」に/杉江ひさの……………P7
- ・原発ゼロをめざして 滋賀の脱原発市民運動(2016~/野口宏・P8

《 2019年9月号 No. 375 》

ではないことは明らかです。政府の「働き方改革」の狙いと、真に教師が生きがいを持って働ける「働き方」について議論したいと思います。教育のつどいが、冬に開催されていた「全国教研」から夏に変わって15年ほど経ちます。冬の雪を踏んでの参加も印象的でしたが、夏の暑い最中、汗を拭きながらの移動も印象に残ることでしょう。夏休みに実施して一般の参加を増やしたいという目的は、今回だけでなく達成されたのでしょうか。ただ、次の日から学校が始まる所も多かったように、最終日は腰が落ち着かない人も多かったように思います。

(ちゃやよしこ)

